

北京の博物館における多民族的視点

～中国人民革命軍事博物館と国家博物館の説明版を中心に～

松 田 徹

はじめに

そもそも博物館というものをどう考えるか。国際的に見てもその定義は幅広い。一般的には、社会とその発展に貢献するため、公的あるいは私的に設置された教育文化機関であり、豊かな文化創造とその継承のための活動が展開される社会的な仕組みと定義されよう^(注1)。また、観光施設としての博物館は文化観光^(注2)を担う重要な施設でもある。

しかしながら、現代中国における観光開発は、政治的意味合いと不可分の要素を多分に持つ^(注3)。中国における博物館は、国家の威信をかけた文化遺産の保存・管理・公開の場であり、多分に政治的プロパガンダの重要装置であるという側面も無視できない。

もっとも、現在の中国において博物館の展示に政治性を求めるのは自明の理といえよう。そこで、本稿では、北京の二つの博物館における展示説明文中、「多民族国家中国」が意識的に表出されている箇所に着目した。それら分析を通じて、現代中国のかかえている問題点がより鮮明になるのではないだろうか。その点を検証してみたい。

I. 中国人民革命軍事博物館の特別展

まず、今年8月24日(日)に訪問した、中国人民革命軍事博物館における展示について述べることにする^(注4)。

北京では最も古い地下鉄1号線の「軍事博物館」駅正面にある同博物館は、目下本館改装工事中であった。それにもかかわらず、多くの国内観光客が訪れて長蛇の列をなしていた。入館は無料であるが、身分証の提示と荷物のX線検査があり、入館までに相当の時間を要した。観光客のお目当ては、改装工事中も本館前で展示されている各種兵器の実物であった。兵器の中には、鹵獲された日本軍の97式中戦車や米軍のM4

シャーマン戦車などもあった。

しかし、我々が見学したのは、別館で特別展示されていた“历史不能忘记—近代以来中国人民抗击日本侵略展”（歴史を忘れてはならない—近代以降における中国人民による抗日展）であった。日本の明治維新から説き起こし、日本による中国侵略の過程とそれに対する抵抗活動を、パネル、模型、軍服や兵器などの実物を使って展示したものである^(注5)。

以下、この展示中で、特に目を引いた説明文を引用し、日本語訳を付して分析していくことにする。なお下線部は筆者によるもので、特に「多民族」「中華民族」というキーワードに着目した。

前言

抗击日本侵略，是近代以来中国人民抵御外侮的最主要内容。甲午战争的失败，使民族危机愈加深重，促进了中华民族的觉醒和爱国救亡运动的兴起。九一八事变后，中国人民经过 14 年抗击日本蓄意独霸中国的民族解放战争，最终取得近代以来反抗外敌入侵的第一次完全胜利。抗日战争的伟大胜利，极大丰富和升华了以爱国主义为核心的中华民族精神，成为中华民族由衰败走向复兴的转折枢纽，深刻地改变了中华民族的历史命运。

再现近代以来中国人民抗击日本侵略的英勇历史，旨在总结经验教训，弘扬伟大民族精神，进一步激励广大人民群众和部队官兵为实现强国梦强军梦而努力奋斗。

はじめに

日本の侵略に対する抵抗は、近代以降、中国人民が外国の侵略と圧迫に立ち向かった中でも最も重要な事象である。日清戦争敗戦によって、民族的危機が深刻さを増したことは、中華民族の覚醒と愛国救国運動を促した。九一八事変（満州事変：訳者注）後、日本は中国をわが物にしようとする目論んだ。それに対し中国人民は 14 年間の民族解放戦争を経て、最終的には、近代以降、外敵侵略に対する初の完全勝利を獲得した。抗日戦争の偉大な勝利は、愛国主義を核心とする中華民族の精神を限りなく豊富かつ高度なものにした。そし

て、中華民族が衰退から復興に至る一大転換点となり、中華民族の歴史的命運を大きく変えたのである。

私達は「歴史を忘れてはならない－近代以降における中国人民による抗日展」を開催する。近代以降、中国人民が日本の侵略に勇敢に立ち向かい反撃を加えた歴史を再現し、経験と教訓を総括するのがその趣旨である。偉大な民族精神を発揚して、より広範な人民大衆と部隊将兵に、富国強兵という夢の実現に向かって一層奮励努力するようにエールを送るものである。

まずはこの特別展示の目的が説明されている。中華民族の覚醒、解放、精神というスローガンが目につく。以下、順路に沿って見学していくと、福沢諭吉が脱亜入欧論を唱え対外侵略拡張理論を鼓吹した、とする解説に始まり、明治維新から日清戦争を経て徐々に中国が侵されていく過程が描かれていた。

抗日運動・戦争の部分で注目すべき点は、全中華民族が一致協力して戦った、という記述である。以下はその展示写真パネルの一つである^(注6)。



全国各族人民紧密团结，一致对敌，为挽救中华民族危亡、争取抗战胜利作出重大贡献。图为回民支队在练兵。

全国の各民族人民は固く団結し、一致して敵に抵抗した。中華民

族を滅亡の危機から救い、抗日戦争勝利に、大きく貢献した。図は回族分遣隊が練兵をしているところである^(注6)。

パネルは、その後、海外華僑、台湾同胞と続き、各国の対日戦協力の展示とともに、あたかも対日包囲網の様相を呈していく。

结束语

落后就要挨打，这是中国人民从近代以来屡遭外来侵略悲惨经历中得出的骨刻教训。抗日战争胜利说明，以爱国主义为核心的伟大民族精神，蕴藏着民族的巨大凝聚力，不仅是抵御外来侵略、维护祖国统一的伟大精神力量，也是鼓舞中国人民团结奋斗和推动社会进步的永恒动力。在新的历史条件下，全党全国各族人民要紧密切结在以习近平总书记为核心的党中央周围，大力弘扬伟大的抗战精神^(注7)，不断增强团结一心的精神纽带、自强不息的精神动力，继续朝着中华民族伟大复兴的中国梦奋勇前进。

まとめ

後れを取れば叩かれる。これは、中国人民が近代以降、外来の侵略を何度も受けた悲惨な経験の中で得た、骨の髄までしみ込んだ教訓である。抗日戦争における勝利は、愛国主義を核心とする偉大な民族精神が、民族の巨大な凝集力を秘めており、外来の侵略を防ぎ止め祖国統一を守るという偉大な精神的パワーであるだけでなく、中国人民が団結奮闘して社会進歩を推し進めることを鼓舞する永久不変のエネルギーでもあることを物語っている。新しい歴史的条件の下で、全党、全国の各民族人民は、習近平同志を総書記とする党中央の周囲に固く結束せねばならない。偉大な抗日戦争の精神を大いに発揚し、絶えず一致団結の精神的きずなと弛まぬ精神的原動力を、絶えず強めていかねばならない。そして、中華民族の偉大な復興という目標である中国の夢に向かって、引き続き勇躍邁進しなければならぬのだ。

後述の第Ⅱ章で取り上げる展示説明と同様の「公式見解」である。単に「全ての人民」とせず、「各民族人民」としている。このように、展示全体を通じて日本に対して全国各民族ひいては海外の同胞（例えば台湾の高山族）も一致協力して抗日に参加した、というトーンが貫かれている。

Ⅱ. 中国国家博物館

次に、8月26日（火）に訪問した中国国家博物館である。2003年以前は「中国歴史博物館」と「中国革命博物館」の二つに分かれ、それぞれ天安門広場の東側に位置していたが、大規模拡張工事を経て2011年にリニューアルオープンした。

開館時間前から参観者が並んでいた。入館料は無料だが、例によって厳重な身分証チェックとセキュリティーチェックは空港並であった。ここでは、地下1階の常設展示である「古代中国展」から見ていくことにした。前章と同様、着目すべき説明文を抜書きしていく。便宜的に番号を付けたが、展示室すべての説明版ではない。

1. 前言

“古代中国陈列”是中国国家博物馆的基本陈列。它以王朝更替为主要脉络。分为远古时期、夏商西周时期、春秋战国时期、秦汉时期、三国两晋南北朝时期、隋唐五代时期、辽宋金元时期和明清时期八个部分。该陈列以古代珍贵文物主要见证，较为全面地展示了古代中国不同历史时期在政治、经济、文化、社会生活以及中外交流等方面的发展状况。突出展现了中华文明绵延不绝的发展特点和各族人民共同缔造多民族国家的历史进程。展览了中华民族所取得的辉煌成就和对人类文明所做出的伟大贡献。

はじめに

「古代中国展」は、中国国家博物館の常設展示である。王朝の交替を主軸とし、太古の時代、夏商（殷のこと：訳者注）西周時代、春秋戦国時代、秦漢時代、三国兩晋南北朝時代、隋唐五代時代、遼宋金

時代および明清時代の8つの部分に分けられる。この展示は、古代の貴重な文化財を根本史料とし、古代中国の異なる歴史的時代の政治、経済、文化、社会生活と国内外の交流などにおける発展の様子を、やや全面的に展示したものである。中華文明が脈々と続いて絶えず発展してきた特徴、および各民族の人々が共に多民族国家を打ち立ててきた偉大な歴史的プロセスを鮮明に繰り広げている。中華民族が勝ち得た輝かしい業績と人類文明に対して果たした偉大な貢献を展覧したものである。

2. 秦汉时期的周边各族

秦汉时期，除中原地区人口众多的汉族以外，主要有北方的匈奴，东北的乌桓、鲜卑，西北的西域各族，东南和南方的百越，西南的西南夷等。各族人民创造了各具特点的文化，为多民族国家历史的发展做出了贡献。

秦漢時代の周辺各民族

秦漢時代，中原地区の人口が多い漢族以外，主に北方の匈奴，東北の烏桓や鮮卑，西北の西域各民族，東南と南方の百越，西南の西南夷などがいた。各民族の人々は、それぞれ特徴を持つ文化を創造し、多民族国家の歴史的発展のために貢献した。

3. 匈奴

这一时期，匈奴具有发达的游牧经济和强大的军事势力。秦朝大将军蒙恬曾率军出击匈奴。汉朝和匈奴之间也曾发生激烈的军事冲突，但又长期互通关市，多次和亲。西汉元帝时，匈奴呼韩邪单于与汉朝立下盟约：“汉与匈奴合为一家。”在一些匈奴人活动地区出土的文物中，草原文化特色和汉式风格并存，反映了两族人民密切交往的史实。
匈奴

この時代，匈奴は発達した遊牧経済と強大な軍事力を有していた。秦の大將軍蒙恬は軍を率いて匈奴を討つために出撃した。漢と匈奴との間にも激烈な軍事的衝突が起こった。しかし一方では長期にわ

たり辺境交易を行い、何度も和親（姻戚関係を結ぶこと：訳者注）した。前漢の元帝の時には、匈奴の呼韓邪単于は漢朝と「漢と匈奴は合して一家となる」という盟約を結んだ。匈奴の人々が活動した地域の出土文物の中には、草原の文化的特色と漢式のスタイルが共存しているが、これは二つの民族の人々が密接に交流したという史実を反映している。

4. 多民族政权并立与民族融合

东汉灭亡后，形成了魏、蜀、吴三国鼎立的局面。此后，经历了西晋的短暂统一，中国进入一个多民族政权并立的时期。南方出现了代表门阀世族利益的东晋及南朝政权。北方则出现了主要由少数民族统治者建立的“十六国”及北朝政权。这一时期，民族融合在规模与程度上都超越以往时代。为统一的多民族的隋唐王朝建立奠定了基础。

多民族の政権の並立と民族の融合

後漢が滅ぶと、魏、蜀、呉の三国が鼎立する局面となった。それ以降、西晋による短い統一を経て、中国は多民族の政権が同時に存立する時代に入った。南方では、門閥豪族の利益を代表する東晋と南朝の政権が出現した。北方では、主に少数民族の統治者が創立した「十六国」と北朝の政権が現れた。この時代、民族の融合は、規模と程度の上では、どちらも過去の時代を越えるものであった。統一された多民族（政権）の隋唐王朝創立のための基礎国となったのである。

5. 三国两晋南北朝的社会生活

在三国两晋南北朝近 400 年间，人口的流动使不同地区、不同民族的人们在饮食、起居、服装等方面互相影响。汉族人以积极的姿态包容、吸取外来生活习俗，各少数民族也热衷于学习汉族的风俗礼仪，社会生活呈现出以汉族文化为主体、兼收并蓄的时代风貌。

三国两晋南北朝の社会生活

三国两晋南北朝の 400 年近くの間、人口の移動は、異なる地域、

異なる民族の人々の飲食、日常生活、服装などの面において相互に影響し合った。漢民族が、積極的な包容の姿勢と外来の生活習慣を受け入れたことで、各少数民族も漢族の風習や儀礼を熱心に学んだ。そして、社会生活において、漢民族の文化を主体としながらも、内容性質が違ったものでもすべて吸収するという時代の様相が現れることとなった。

6. 統一多民族国家的发展

经过 300 余年的分裂割据与民族融合，6 世纪末，中国历史再次进入了一个兴盛的统一时代。隋唐以西京长安、东京洛阳为中心，统治疆域大大扩展，各民族间交往愈益密切，典章制度臻于完备，经济、文化空前繁荣，这一时期成为继秦汉之后统一的多民族国家的重要发展阶段。

統一的多民族国家の発展

300 年あまりの分裂割拠と民族の融合を経て、6 世紀末、中国の歴史は栄華を極めた統一時代に再び入った。隋唐は、西の都である長安と東の都である洛陽を中心とし、境域の統治を大いに広げた。各民族間の交流はますます密接となり、法令制度も完備されたものとなった。経済、文化は空前の繁栄を迎えた。この時代は、秦漢の後を承け、統一的多民族国家としての重要な発展段階となった。

7. 隋唐五代的社会生活

经济的繁荣、物质的丰富使得社会生活质量大有提高，人们的衣食住行更加精致、多彩。各民族及中外交流的空前频繁，使得社会生活呈现出开放和多种文化习俗融合的时代特色。服饰推陈出新，更加绚丽多彩，饮食增加了许多新品种，“胡服”、“胡妆”、“胡食”、和“胡乐”曾流行一时，妇女有骑马出游之风，马球等娱乐竞技活动也盛行起来。

隋唐五代の社会生活

経済の繁栄と物資の豊かさは、社会生活の質を大いに高め、人々

の衣食住と交通手段は更に精緻で、多彩なものとなった。各民族と国内外の交流は、過去にないほど頻繁に行われ、社会生活においては、開放的かつ多様な文化習俗が融合するという時代の特色が現れた。服飾は、古いものの良さが新しいものに生かされたばかりでなく、いっそう絢爛豪華で多彩なものとなった。飲食は多くの新しい飲食品が増え、「胡服」「胡粧」「胡食」および「胡楽」がしばらくの間流行した。女性も乗馬して出かけたりすることが習慣となり、ポロなどの娯楽やスポーツも盛んになった。

8. 多民族政权的并立与统一

从公元 10 世纪开始，中国逐渐形成了新的格局。汉族建立的宋统治了从黄河中下游流域直至南海的地区，后被迫退缩到江淮以南，但始终在经济、文化方面居于核心地位。北方的契丹、党项和女真先后建立了辽、夏和金政权，西南有吐蕃和大理。13 世纪蒙古族兴起后，结束了多民族政权并立、对峙的局面，实现大统一。西藏等地区成为中国版图中新的组成部分。四百余年间，虽然战乱不绝，但各民族民族间的交流持续不断，中国与世界其他地区的交流也非常密切。

多民族の政権の並立と統一

10 世紀から、中国では次第に新しい構造が形成された。漢族の創立した宋が黄河の中・下流の流域から南シナ海までの地域を支配したが、後に支配地域は長江・淮河流域以南まで縮小を余儀なくされた。しかし、経済、文化の面では終始中心的地位を占めていた。北方の契丹、タンゲート族と女真は相前後して遼、夏（西夏のこと：訳者注）および金の政権を創立し、南西には吐蕃と大理があった。13 世紀、モンゴル族が興ると、多民族の政権が並立、対峙する局面は終わりをつげ、大統一が実現した。チベットなどの地域は中国の版図の中でも新しい構成部分となった。400 年余りの間、戦乱は絶えなかったが、各民族間の交流は絶え間なく続き、中国と世界その他の地域との交流も非常に密接であった。

9. 清朝—统一多民族国家的巩固和发展

清朝是由我国少数民族满族建立的最后一个帝制王朝。从清太祖努尔哈赤至清末宣统皇帝溥仪，历经近 300 年。公元 1644 年清朝入主北京至 1840 年鸦片战争爆发，这一时期为清前期，是清朝从开基创业，建立中央政权到统一多民族国家空前巩固和发展的阶段。

清—統一的多民族国家の強化と発展

清は我が国の少数民族満州族が創立した最後の帝制王朝である。清の太祖ヌルハチから清末の宣統帝溥儀まで、300 年近くに及ぶ歴史を有する。西暦 1644 年清朝が北京に入ってから 1840 年のアヘン戦争勃発までの時期が清の前期である。すなわち、清が創業の基礎を築き中央政権を建立し、多民族国家を統一するまでの、空前の強固たる発展の段階である。

以上見てきたような、中国が古来以来「多民族国家」であったとする歴史観は、現代中国においては、ある意味常識である^(注8)。だが、今こうして一般観光客に交じって説明版を読み、展示物を見ていくと、自ずと一つの歴史観に意識が強く支配されていくことを実感するのである。

本章冒頭でも触れたが、今の国家博物館は、以前二つの別の博物館に分かれていた。北館にある「復興の道」展は、アヘン戦争以降の苦難の歴史をたどり、「中華民族の大復興」で大団円を迎える。

10. 前言

中华民族是勤劳勇敢智慧和爱好和平的伟大的民族，为人类文明进步做出过不可磨灭的巨大的贡献。民族兴旺、国家强盛是一代代中华儿女的不懈追求。《复兴之路》基本陈列通过回顾 1840 年鸦片战争以来，陷入半殖民地半封建社会深渊的中国各阶层人民在屈辱苦难中奋起抗战，为实现民族复兴进行的种种探索，特别是中国共产党领导全国各族人民争取民族独立人民解放、国家富强人民幸福的光辉历程，充分展示历史和人民怎样选择了马克思主义、选择了中国共产党、选择了社会主义道路、选择了改革开放，必须始终坚持高举中国特色社

会主义伟大的旗帜不动摇，坚持中国特色社会主义理论体系不动摇。

今天，中华民族已经巍然屹立于世界东方，伟大复兴的光辉前景已经展现在我们面前。中华儿女的梦想和追求一定能够实现！

はじめに

中華民族は勤勉，勇敢かつ叡智に富む平和を愛する偉大な民族であり，人類文明の進歩のために計り知れない不滅の貢献をなした。民族の隆盛と国家の繁栄は，代々中国人が弛まず追い求めてきたものである。「復興の道」という常設展示は，1840年のアヘン戦争以来，半植民地・半封建という深みに陥ってしまった中国各階層の人々が，屈辱と苦難の中で奮起して戦い，民族復興を実現するために行った様々な模索，特に中国共産党が全国各民族人民を指導して，民族の独立，人民の解放，国家の富強，人民の幸福を勝ち取った輝かしい歴史を振り返るものである。それを通して，歴史と人民が如何にしてマルクス主義選択し，中国共産党を，社会主義の道を，改革開放を選んだか，そして，中国の特色を持つ社会主義の偉大な旗幟を高く掲げつつも動揺せず，その理論体系を堅持して揺るぎもしない，ということ余すところなく示している。

今日，中華民族はすでに世界の東方において，巍然とそびえ立っている。偉大な復興という輝かしい未来は，すでに我々の目の前に広がっている。中国人の夢と願望は必ずや実現できるのだ！

11. 结束语

一百多年来，中华民族谱写了团结奋斗、自强不息的壮丽史诗。特别是中国共产党成立90年来，在党的坚强领导下，我们伟大的祖国相继实现了从半殖民地半封建社会到民族独立、人民当家作主新社会的历史性转变，从新民主主义革命到社会主义革命和建设的历史性转变，从高度集中的计划经济体制到充满活力的社会主义市场经济体制、从封闭半封闭到全方位开放的历史性转变。历史昭示我们：没有中国共产党就没有新中国，就没有中国特色社会主义；只有社会主义才能救中国，只有改革开放才能发展中国、发展社会主义、发展马克思主义。

站在新的历史起点上，面向未来，任重道远。让我们紧密团结在以胡锦涛同志为总书记的党中央周围，高举中国特色社会主义伟大旗帜，坚持以马克思主义、毛泽东思想、邓小平理论和“三个代表”重要思想为指导，深入贯彻落实科学发展观，万众一心，开拓奋进，为实现“十二五”规划和全面建设小康社会宏伟目标而奋斗！

まとめ

百数年来，中華民族は団結奮闘し，自らつとめ励んでやまない雄壮で美しい歴史的叙事詩を編んで来た。特に中国共産党が創立されて九十年來，党の強靱な指導の下，我が偉大なる祖国は，歴史的な轉換を相継いで成し遂げて来た。それは，半植民地・半封建社会から民族独立や人民が主人公となる新社会という歴史的轉換，新民主主義革命から社会主義革命および建設という歴史的轉換，高度に集中した計画経済体制から活力あふれる社会主義市場経済体制まで，半ば鎖国状態から全面的な開放にいたるまでの歴史的轉換である。歴史は我々に以下のことを明らかに示している。すなわち，中国共産党がなければ新中国もなく，中国的特色を持つ社会主義もない。そして，中国を救うには社会主義しかないこと，中国の發展，マルクス主義の發展，社会主義の發展には，改革開放しかないのだということ。

新しい歴史の起点に立って，未来に向かう，この責任は重大であり道のり遠い。我々は，胡锦涛同志を総書記とする党中央の周囲に固く結束せねばならない。中国的特色を持つ社会主義の偉大な旗幟を高く掲げ，マルクス主義，毛沢東思想，鄧小平理論および「三つの代表」という重要な思想を指針として，科学的發展觀を徹底的かつ着実に実行し，皆が心を一つにして，新しい道を切り開きつつ勇猛果敢に前進しよう！「十二五」計画（2011～15年の第十二次五カ年計画：訳者注）および全面的な小康社会（ある程度ゆとりのある社会：訳者注）の建設という雄大な目標實現のため奮闘しよう！

第Ⅱ章で触れたのとはよく似た総括の仕方だが，未だ総書記が胡锦涛のまままで習近平になっていないなど，即応性がない点が指摘される。ちな

みに、盧溝橋の抗日戦争紀念館では、習近平の写真はもとより、今年の5月21日上海での国際会議の様子を伝えるパネルがあった。

このように国家博物館の展示は、歴史展示物の重厚さと説明の正確さにおいては、最新の設備も相俟って見学者を感動させるに余りあるものとなっている。そして、ここにも「多民族国家中国」「中華民族の歴史」という基調となる歴史観が垣間見られる。

Ⅲ. 中国の民族問題と観光をめぐる

中国の歴史は、漢民族と周辺民族との抗争と交流の歴史といえる。本論で紹介した博物館の展示説明は、その中の平和的交流をかなり強調したと言えよう。しかし、周知のとおり、現代中国は民族問題という大きな時限爆弾を抱えている。

問題点の1が、少数民族独立問題であり、チベット独立問題などは、夙に国際政治のカードと化している。また、ウイグル（東トルキスタン）独立問題は、深刻な武装闘争・国内テロの危険性を孕んでいる。イスラム教が背景となった宗教が絡み問題を複雑化している。

問題点の2は民族差別である。圧倒的多数を占める漢民族の優越感、少数民族に対する蔑視も依然存在する。民族団結を訴える「中華民族」は、中国人としてのアイデンティティを強調し、愛国主義を展開する装置として使われるが、反撥もある。

問題点の3は経済格差である。中国政府は、貧困のもたらす社会的諸問題を解決するべく「西部大開発」を進めているが、開発地の少数民族地帯での漢族と少数民族の経済格差は拡がるばかりである。後述のように、経済の立ち遅れが幸いして観光資源となる皮肉もある。産業化の進展による民族伝統文化の破壊地域性も懸念される。

雨森直也氏は、雲南省少数民族地帯における観光開発の例を挙げ^(注9)、

中国政府のこれまでの民族政策は、限界に近づきつつあり、中国政府にとって非常に大きな課題の一つとなっている。観光は、そうした課題にヒントを与えているように思われる。普段、少数民族に触

れる機会のない漢族のツーリストが、民族地区を訪れて民族観光をすることは、等身大の交流ができるよい機会の一つである。とくに迎える側の少数民族の人々が、自らの民族文化を漢族の人々に観光という形で受け入れられることは、彼らに新たな自尊心を与える機会になるだろう。

として、少数民族地域における観光開発に積極的な意味を見出している。しかし、中国における民族問題、とりわけ新疆地域におけるそれは、複雑で出口の見えない袋小路の観を呈している。

また、中国の場合、観光開発は、経済的な後進地域における貧困問題を解決する目的で立案・施行されることが多く、観光化→産業化というステップを踏む。

たとえば、兼重努氏は、経済的効果のみが強調されがちで、観光開発が地元民の文化や生活にそのものに及ぼしている影響を考慮すべきであるとし、

政府やそのアドバイザーたちが掲げる観光開発の論理と、地元民がもつ文化や生活に根ざした感覚、この両者がこれから折り合いをつけていくことができるのだろうか、という問題である。政府の方針に庶民が表立って反対することが難しい国情において、行政主導の観光開発の論理に地元の人々は一方的に屈服させられてしまうのか
…

と、これから注視すべき事柄を述べている^(注10)。

こうした種々の問題を抱えながらも、民族的対立や矛盾が顕在化しないよう、少数民族優遇策も実施されており、その点政府はバランスを維持しようと努めている。また同時に、「中華民族」の団結を強調する装置を巧みに形成している。

たとえば、1999年北京に北京中華民族園がオープンした。このような民族をテーマにした娯楽施設を、高山陽子氏は「エスニック・テーマ

パーク」として紹介している。そして、この種のテーマパークでは、各民族は「民族団結」を理念として平等に扱われるのが建前だが、実際には民族間のディスプレイ上の差は大きく、「民族風情」はステレオタイプ化されているという。そして、エスニック・テーマパークで展示される民族のほとんどは南方の少数民族であり、色鮮やかな衣装を着た華麗で小柄な女性たちが歌い踊って、熱帯の植物や象、孔雀がいる異国の空間が作り出されている、こうした原始性が好奇心を満足させ、優越感を与える、と分析している^(注11)。

このように、中国においては、観光は単なる観光ではなく、国家の体制を維持する上で大きな役割を担っているのである。本論で紹介した博物館における説明文も、一般大衆に対する啓蒙に有力な作用を及ぼすものなのである。

おわりに

そもそも歴史に対し、一般大衆は、個々の事件や人物に関心を向けるものの、一つの流れとしてトータルにとらえる機会がそうあるわけではない。観光客として博物館を訪れた時、展示物を通して改めて意識させられるのである。展示する側も、当然一定のテーマを設定しており、展示物の巧みな配置とその意図に沿った展示説明が求められる。

その意味で、本論で検討した二つの博物館の展示は、十分に役割をはたしているものといえるだろう。

付記：

本稿は、2014年の麗澤大学経済社会総合センター共同研究プロジェクト「東アジアにおける史跡・文化と観光開発の諸問題について」（研究代表者：松田徹 共同研究者：櫻井良樹、堤和彦、汪義翔、邱瑋琪、阿不都熱西提・阿不都勒提甫）、

および麗澤大学特別研究助成プロジェクト「中国新疆地域をめぐる歴史社会研究」（研究代表者：堤和彦 共同研究者：櫻井良樹、松田徹）による研究成果の一部である。今回の調査行に同行し適切な助言をいただいた櫻井教授と両ブ

プロジェクトの実務を担当された堤准教授に感謝申し上げます。

なお、本稿は、2014年12月19日、麗澤大学2508教室における同プロジェクト研究発表をもとにしている。

注：

- 1) 君塚仁彦・名兎耶明編『現代に生きる博物館』有斐閣2012年12月 pp.3 参照。
- 2) 文化観光 (Cultural Tourism) とは、本質的に文化的な動機に基づいた観光活動の一形態を意味し、その内容は、学習、芸術鑑賞、祝祭、文化イベント、遺跡訪問、自然・民俗・芸術の研究、巡礼のための旅行などを含む広範なものである。前田勇編『現代観光学キーワード事典』学文社1998年4月 pp.89 参照。
- 3) 近年、観光資源としての史跡を「愛国主義教育基地」として位置づけ、愛国主義教育基地は近現代の史跡にとどまらない。「偉大な中華民族」という観点からは、例えば、秦の始皇帝の「偉大な業績」やシルクロードへの道筋を拓いた漢の武帝も讃えられるべき対象となる。このことは、中国における観光の特殊性を示している。

この点に関しては、拙稿「中国西安の観光と政治性」『中国研究』20号（麗澤大学中国語研究会）2012年12月 pp.65～81 参照。

- 4) 2014年8月21日～26日の6日間、外国語学部櫻井良樹教授と2人で、北京・天津を訪問した。移動は天津行の高速鉄道のほかは、ほとんど地下鉄と徒歩で行い、出来るだけ多くの博物館や・史跡を見学・調査した。少数民族をどのように扱っているか、歴史的に多民族国家としての中国を如何に強調しているかを視点として観察した。

主な訪問史跡と日程は以下の通りである。

8月21日（木）成田出発。北京着、孔廟・国子監、孫中山故居付近見学

8月22日（金）天津へ移動。近代天津歴史博物館周辺の観光地区、旧天津租界内の有名人故居（顧維鈞・慶親王・張作相・段祺瑞）、利順徳飯店（旧アスター・ホテル）内の博物館、張園（孫文・溥儀らの故居）、静園（溥儀故居）

8月23日（土）老舎故居、旧北京大学紅樓、南鑼鼓巷の馮国璋と婉容の

旧宅, 宋慶齡故居, 梅蘭芳紀念館, 老舍生家付近の胡同

8月24日(日) 趙登禹將軍墓地, 抗日戦争紀念館, 盧溝橋, 豊台火車站,
中華世紀壇, 中国人民革命軍事博物館

8月25日(月) 頤和園, 円明園

8月26日(火) 中国国家博物館, 東交民巷

- 5) 改修中の本館西側の復興大厦1階展示室で, 2014年7月24日から9月7日まで開催されたもの。中国第一歴史档案館と中国甲午戦争博物院の協賛。入場はもちろん無料であった。
- 6) 同じ日の午前中訪れた盧溝橋の抗日戦争紀念館でも, 全く同じ写真が展示されていた。なお, 盧溝橋の紀念館の展示物には中国語だけでなくすべて日本語の説明文も併記されていた。
- 7) 「伟大的抗战精神」の抗战は「外国の侵略に抵抗する戦争」の意味だが, 特に「抗日戦争」を意味することが多い。例えば, 抗战时期 抗战八年 抗战区などでは抗日戦争を指す。
- 8) 例えば, 王柯『中国多民族国家の歩み「天下」を目指して』(図説中国文化百科013) 農文協 2007年3月はそのような視点に立つ。
- 9) 雨森直也「観光による民族文化への誇り: 中国雲南省鶴慶県を中心に」(藤巻正己・江口信清編著『グローバル化とアジアの観光—他者理解の旅へ』ナカニシヤ出版 2009年5月 pp.63
- 10) 兼重努「民族観光の産業化と地元民の対応—広西三江トン族・程陽景区の事例から—」『中国21』(愛知大学現代中国学会編) Vol.29 2008年3月 pp.133～4
- 11) 高山陽子『民族の幻影—中国少数民族観光の行方—』東北大学出版会 2007年6月 pp.132～151